



発行所 福井県大野郡 和泉村

(昭和44年11月1日現在)

村の人口	2人
出生	0人
死亡	25人
転入	16人
転出	16人
総人口	2,549人
男	1,317人
女	1,232人
世帯数	690世帯

村の面積 332.26平方km

今月の目標

- あわただしい年の暮となりまし
- 各自が防犯に協力しましょう
- 油断は大敵、外出や夜間の戸締りは厳重にしましょう
- 無理なお歳暮はやめましょう

生活目標

- 一、時間を守ることを集合の始まる時間と終る時間を守る
- 二、体力を知ること 自分の体力を知り体力に合う生活を
- 三、村をきれいにすること 村民こそつてまわりを美しくする

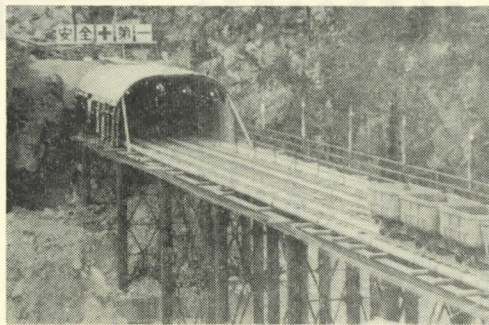
一九六九年の 和泉村の歩み

主な事業の展望

早や師走を迎えて、後何日かで除夜の鐘に暮れようとしている一九六九年……、去る年にのぞみ、今年も大きな課題を背負って歩んだ和泉村の一年と、主な事業の進捗状況を御知らせすると共に、反省の資といたしたいと存じます。

一、道路交通関係

① 国道の改良及び舗装工事 大野朝日間で現在約四、七〇〇米が市員拡張のための改良工事中



朝日～白鳥間で舗装工事において現在までに約二〇キロ米が舗装済になり約三キロ米を残すのみとなった。

② 越美北線の進行状況 本年度予算配分六億円を獲得し、現在までに竣功あるいは工事中のもので八、三三三米(八三%)となり、残すは一、六六三米(一七%)で来春早々工事に着手される予定

③ 県道の改良工事 只越トンネルにおいては、現在計画測量中で本年度中に用地買収を済ませ来年度着工の予定

④ 工場の進出 今春制定された工場設置奨励条例に伴ない、六月に稲山織物区が進出し現在織機六〇台従業員約三十名、又昨年四月進出した大日産業で、この程新工場を完成、マシン四七台、従業員五十名となっている。

⑤ 林業振興事業の林道開発事業荒島線は三ヶ年の継続事業で行なわれ、本年度分として四九七米が工事中である。又、現在工事中である谷山線の一、七〇〇米、水谷線二四四米は本年度中に完成の予定

⑥ 山村振興事業の見込 本年度中に指定の予定であり、四ヶ年計画で、交通施策、通信施策、観光施策、産業の生産基盤施策等の事業を行なう予定である。

⑦ 観光開発事業 施設の設定開設 民芸館や穴馬絵社を始め、九頭竜、和泉、中部の各観光会社が誕生し、九頭竜ダムを中心に多数の観光客を引き寄せた。

⑧ 観光客の入込状況 今年一月から十月末までに約十八万人が訪れた。

観光和泉の指向するもの

観光の和泉を打ち出して早や三年、試行錯誤で第一歩を踏み出し、県の指導、観光コンサルタントの助言、自らの調査体験等を通じて、最近の観光今後の観光の動向を診断するに、自然復帰の観光、審美活動の加わる観光が

大きな流れとして基本性を形成していると思われる。人工とは言えないが自然と融和した九頭竜ダム群を控え、またこの出現に伴って生活道路が山頂近くまで昇げられ、かつての穴馬を二〇〇米の上空から眺められる景観が加わ

つて、現代人の観光感覚を十分満足させることになった(写真参照) 試みに発足以来の観光客入込数を推計するに 出発当初の一昨年は五千人(自然集中) 第二年度の昨年は三万人(若干の宣伝集中)として今年十月末までに既に十八万人(業者の宣伝活動)を数えている。一概にこの入込数の上昇のみで全面的に観光の進展を断定することは出来ないが少なくとも、この異状なまでの伸び率は、この地が現代人の感覚を捉える素材を多分に持つていることを物語るものである。人の集らない観光地は有り得ないのであるから、集めること、集まる必要がある条件である。(充分条件ではない)

さて集まる人々をどのように捉え、どのように魅力を持たせ、どのような観光素材を与えて満足させて帰すかが観光供給者(和泉村)の工夫が集中されるところで、如何に世が観光ブームとは言っても、手をこまぬいで飛び込んで来る者もなくならない。村民のだからが教習をしばつてこの現状を利用してゆくことが目下の急務で、宣伝誘致は各業者の外、村でも可能な限り努力を払い、入込者は夫々が自分の能力一ぱいに収容し、更に自力で大きく誘致していつてこそ今後の発展が約束されるものと思う。

村も観光立村といわれるまでに更に研究し、新たな角度と新たな構成を工夫し村民共々努力し一層の躍進を期待している。

◇ 無理なお歳暮はやめましょう

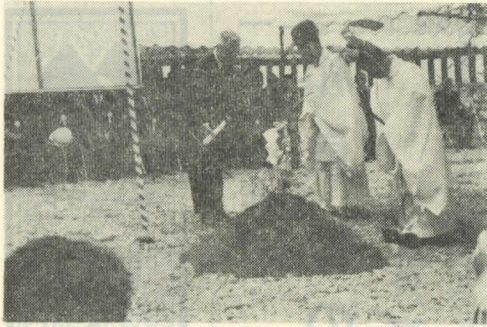
役場の窓

高令者も再加入できる

〓 五年年金 〓

国民年金制度が発足して十年、いまや、本制度に対する関心は、日まに高まってきたり、発足当時、制度を知らなかつたり、あるいは理解できず加入しなかつた人から、将来年金をもらえようとしてほしい、との強い要望が出ています。そこで現在、高令未加入者に対しても一度、年金を受け取ることができるよう国民年金法の改正が予定されています。いわゆる「五年年金」であり、この機会に年令的にみても、最後の機会となりますので、ぜひ加入するよう望みます。

- ◎ 加入できる人
 - 明治三十九年四月二日（現在六十三才）から明治四十四年四月一日（現在五十八才）までの間に生まれた人で、
- ◎ 加入申請期間
 - 来年一月一日から六ヶ月間（十二月中でも受け付けます）
- ◎ 保険料
 - 月額七五〇円で、加入したときから五年間納める。
- ◎ 年金額
 - 納め終った翌月から年額三万円（月二、五〇〇円）の老令年金が支給される。



工事着工式のもよう

越美北線延長工事

三 社 合 同

工事着工式催さる

先に入札のあつた越美北線延長工事に伴う工事着工式が、去る十月二十一日午前十一時から川田工業工事現場において川田工業、前田建設工業、飛鳥建設の三社合同によつて行なわれた。これには村長を始め、県知事代理、板倉区長等工事関係者ら約一〇〇人が出席して工事の安全を祈願した。



◆ 年末助け合い運動に協力しよう



鳥獣保護区が設定されました

「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律第八条ノ二」の規定により左記のとおり「鳥獣保護区」が設定されました。狩猟家の皆さん違反しないよう注意して下さい。

記

- 一、名称 九頭龍ダム鳥獣保護区
- 二、区域 大野郡和泉村地籍九頭龍ダムのうち、国道一五七号線鷺ダムえん堤を基点として同国道を東進して箱ヶ瀬橋に至り、箱ヶ瀬橋を渡つて県道大谷秋生大野線を面谷橋を経て伊勢橋に至り、これより北進して湖岸に沿つて起点に達するダム水面一〇五〇ヘクタール
- 三、面積 約一〇五〇ヘクタール
- 四、期間 昭和四十四年十一月一日から昭和四十五年十月三十一日まで

歳末たすけあい運動

十二月一日から実施

本年も十二月一日から、全国的に歳末たすけあい募金運動が、共同募金運動の一環として実施されることになりました。この運動は、住民の自発的な意志にとづく地域のたすけあい運動として低所得階層の福祉向上に大きな役割を果たしております。この運動によつて寄せられた尊い金品は、在宅重症身障者、寝たきり老人ボーダーライン層の家庭、社会福祉施設の収容者、または長期療養者に施設や、各機関を通じて、明るい正月を迎えるとともに希望と勇気を与えるために贈られます。皆さんのあたたかい善意のご協力を願います。

家庭の日

【12月21日】 一年をかえりみ、しあわせな家庭をよるこぼろ。

和泉村交通災害共済加入及見舞金支払状況

昭和44年10月1日現在

部 落 別	人 口	加入者数	比率 %	災 見 舞 金 額 円
朝日 前坂	24	23	96	
角野 前坂	32	17	53	
後野 月皿	94	31	33	
伊貝 川	20	9	45	
朝日 野倉	58	41	71	
角板 野倉	74	61	82	
朝日 野倉	413	230	56	5等級 20,000
朝日 野倉	38	30	79	
朝日 野倉	53	45	85	
山下 納納	188	108	57	6等級 5,000
下大 納納	36	26	72	
上大 納納	272	44	16	
中そ の他	1,183	90	0.8	
計	2,588	755	30	2件 25,000

交通災害共済

家族そろつて加入されましたか

毎日のように新聞テレビ等で暗い悲しい交通事故のニュースが報道されていますが他人事ではありません。不幸にして災害を受けた人、又はその遺族（住民課）へ申込書に掛金（三六〇円）をお互いに助け合うことを目的として昨年七月に交通災害共済制度が発足しました。本年の加入状況は別表のとおり関係なく、だれでも加入できます。

人権週間

人権を守って明るい社会

十二月四日～十二月十日

毎年十二月十日を「世界人権宣言記念日」とし、この日を中心に世界各国では自由人権思想の啓発高揚のため多彩な行事が実施されています。わが国でも、十二月十日を最終日とする一週間を毎年定期的に「人権週間」として全国的に大規模な啓発活動を実施しています。

人権とは、一口でいえば人間であることによつて当然もつている権利のこととあります。別の面からいえば、すべての人間が、生れながらにもつている能力を、日々の生活の中で最大限に發揮して、より幸福な人生を送るために欠くことのできない権利ということとあります。人権は、人間の尊厳性の自覚と表裏一体の関係にあつて、この二つはつねに密接に結びついているも

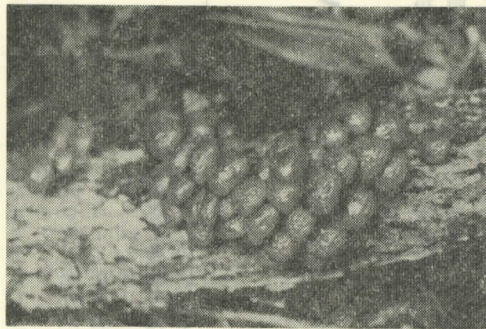


風景検査

去る十月二十七日に第一回、十一月六日に第二回目の供出米の品質検査が大野食糧事務所、条田氏によつて和泉村農協倉庫で行なわれた。本年は豊年早生の作柄が悪く、昨年比べて供出数も百五十俵余り少なく検査もきびしく、不合格品として返されるものも多かった。本年の実数は次の通りである。三等米三六二俵、四等米二九四俵、五等米八七俵、不合格五九俵。尚不合格品別に見ると乾燥不足十六俵、胸われ米四〇俵、もみが多いもの三俵といずれも乾燥調整等のミスが大きな原因となつている。

みりの秋 供出米検査行なわる

われわれ一人一人が人権とはなにか、人権の尊重とはどういうことかをしっかりと理解していなければなりません。憲法第十二条も「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によつて、これを保持しなければならぬ」と規定して人権の保持については、われわれ自身がその努力をしなければならぬ責務をもつてい



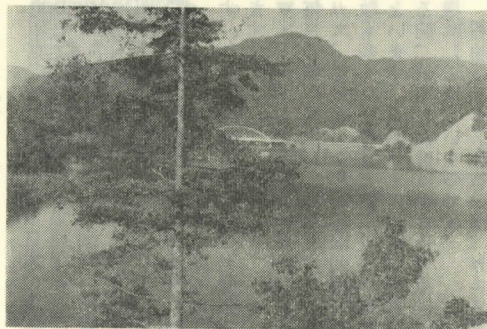
なめこの収穫始まる

和泉村農業協同組合

昨年農協直営の角野試験場ホクダ場で植菌したなめこは可愛目を出し始め、十月二十日から収穫が始まり寒さと共に収量を増して来ていますが、平年に比べ今年秋の好天気続きのために湿度不足となり、昨年に比べて収量が少なく十一月十日現在では二〇〇kg余りと不調な数字を見せ関係者一同を心配させています。

行く年をかえり見て

光陰矢の如しとやら……積極性をモットーに、本格的に取組んだ村造りに明け暮れた昭和四十四年も今、静かに幕を閉じようとしている。 霊峯荒島に立つて回想する。縄文以前に人跡を残し、隔絶した奥地に、厳しい自然環境の中に、生活の歌を綴り田を起し、道を造り、蚕を飼い、麻を作り、ひたすらに、郷土と生活を守り続けた先祖達のたゞずまいを想う。 幾星霜、文明の光は九頭龍の奔馬を制御し、幾千年の生活も集落も湖底に沈めると共に、一大エネルギーを社会人類に放出し始めた。そこには、騒音も濁りもなく、重く沈んだ山々を写して静かに、力強く流動する広大な湖面あるのみ。 瞬時、郷土への愛惜が胸にきしむ。 さて、目を巡らせば、山峡に割う一条の道に、来るは来るは車の群、観光和泉の標傍は、一年を待たずして成果を示す。 本年の遊客実に二十万以上と聞く。 山姿水明、湖風微笑す。紅葉白花と見まがうか、来るべし来るべし、われ等祖先墳墓の地、心に安らぎと思ひ出を残して明日の活力の爲に。 更に頭を巡らせば、谷間に延びる林道、しま刈の植林地、林構事業による基盤整備と、資源開発に意欲を燃やす村人達によつて、山は青く塗り替えられて行く。 塗るべし塗るべし。そして増やせ財を。 灯台下暗し、直下を眺むれば、鉄道開通を目前に、営々増産に励む中電の巨大なる近代設備を見る、只越トンネルにその緒につく。 構造ボーリングと共に自信いやが上にも高しか。 掘るべし掘るべし宝物を。 一転、九頭龍直下、鉄道建設の鈍音を聞く。 望むこと久しく、耐えしこと



湖光

明るく正しい選挙

良い政治への努力

私たちが選挙で代表者(議員や首長)を選ぶのは、私たち住民に代つて政治をやつてもらつたためです。決して全部の権利を白紙で委任したのではありません。したがつて代表者の側に立つていけば、選挙人の意思を無視して、ものごとを考えたり、実施したりするとはしてはいけないわけです。たえず住民がほんとうに望んでいるのはなにか、ということを考えて、住民のためになるような政策をたて、これを決定し、実施しなければならぬ義務があるのです。しかし実際にはどうでしょう。少なくとも現在では、選ばれた人

たちが、ほんとうに代表制の意義を充分に心得て、政治や行政を行なつているとはいえないのではないのでしょうか。それと共に選挙人側においても誇りある一票、責任ある一票の行使がなされていぬ場合があるのでは、ないでしょうか。昨今の新聞等において報道されていぬ衆議院解散による総選挙も予想されており、よい政治も悪い政治も私たち自身の手でつくられ、良い政治への努力は私たち自身の幸せとなつてはねかえつてくることを今一度みんなが自覚して立派な代表者を選ぶようではありませんか。

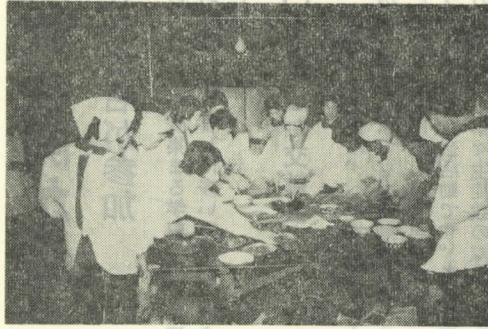
下山婦人学級

開講式催される

下山婦人学級では、去る十一月六日午前十時から大野市栄養改善推進委員(大野保健所委嘱)であり若杉会々長石田文子、同委員長長谷川節子両氏を招き、栄養料理講習会が開かれた。又、午後からは、同婦人学級開講式が行なわれた。

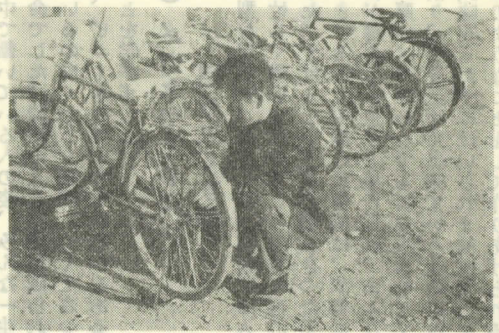
講習会では地元でとれる蔬菜や山菜を充分生かした栄養価の高い調理をもち寄つた材料を使つて調理実習が行なわれた。

又、午後からの開講式には、教育長を始め社会教育主事等を混じえて本年度の学級活動の計画など活発な話し合いが行なわれ、有意義な一日であつた。



料理講習の模様

暖房器具の取扱いに注意



菊川さんありがとう

朝日中学校生徒会

秋の交通安全運動にちなんで、去る十月二十八日、大野市五番の自転車商菊川さんが朝日中学校にこられ、わたしたちが家庭で使っている自転車(欠陥車)を一日無料で修理してくださいました。

この奉仕は菊川さんからの申し出でわたしたちはその善意にたいへん感謝しております。

当日もつてきた自転車は二十台ぐらいいで、最近買った車が多かつたようでしたが、こんどはもつとひどくいたんでいるのをたくさんもつてきてくださうとのことでした。

わたしたちは、このような人の好意にもこたえるべく、自転車の正しいのり方を身につけ、事故のない安全な毎日をおくれるよう努めたいと考えています。

税のお話

昨年十一月号から本年二月号までに大体固定資産税のあらましと村民税の納税義務者のことまでお話いたしました。その後部落座談会でお話することにしたのと地方税法の改正案が国会に提案されたことなどもあつてお話を中断したままになってしまいました。今月から又お話を続けることとしました。今月村民税の非課税の範囲からお話ししたいと思います。個人の村民税の非課税対象は、一、前年中に所得を有しなかつた者、二、生活保護の規定による生活扶助を受けている者、三、障害者、未成年者、老年者、寡婦等で前年中の所得金額が三十万円以下の者は所得割も均等割も一切課税されません。この外均等割の納税義務を負う夫と生計を一にする妻で村内に住所を有する者には均等割は課せられません。次に法人の非課税対象とされる主なるものは、国、県、村、財産区、専売公社、国鉄、電信電話公社、国民健康保険組合、宗教法人、学校法人、労働組合、市町村職員共済組合、農業共済組合其他であります。尚当該年度に於て所得が皆無となり著しく生活が困難となつた者等に対しては村民税を減免することがあります。

婦人学級

国内研修に参加して

昭和四十四年度の国内研修に当つて浅学非才な私が、研修生の一人として四国を訪れ、各地婦人会の方と、交換研修させて頂くことが出来た事は本当にありがたい事でした。

十月十三日から十八日迄の五泊六日は大変充実した日程でしたが、各県の方々の親切なおもてなしや、真剣な話合に感謝すると共に私達研修生を引率して日夜お世話下さつた県の法山先生に、何よりもお礼を申しあげなければ

なりません。井の中の蛙が、他県の実情を見聞して、視野を広めることが出来たという一つを考えても、こうした機会をより多くの人に与えて頂きたいと思ひ、又私自身も何らかの形でこの研修を生かさねばならないと思つています。

他県に進出して研究会にのぞむ事は、始めての事として、いささか心配はしたものの、お互いに話合つて見れば各県の地域性もあつて生活様式その他において特異性あり、共通点あり、又長所や問題点などがよくわかりました。とくに鳴門市の婦人学級は活発でした。婦人学級運営上の留意点として

- 1、婦人学級は始から完全な形でスタートできるものではなく、学習を進めていく過程で学級づくりをしていく気持が大切である
- 2、学級生が参加しやすい雰囲気や仲間意識のよりあげが大切である
- 3、婦人学級は学級生の自主的運営がなされるよう配慮する。などがなる程となつた。

私の研究課題として「学級生の意見発表、質問等に対してはどうですか」の間に、会合を重ねる度に自然に発表するようになる。又意欲のある人は進んで質問すると言つておられ、講師の依頼について

私達純農山村のしかも三ヶ月又四ヶ月間雪の中で生活しながら学級婦人学級とは、生活相違もあつて講師の心配とか、交通の心配とか全く知らない南国婦人学級がいささか羨しいと思ひました。が、冬期間のうち十五、六回の学級を行つている私達上大納合同学級は決して恥しいものではない事を感じました。他県へ行って見たら聴いたり所変れば風変るの通り色々学級も変わって、すべてが勉強になり、これからの婦人会活動、社会教育活動に少しでも役立つよう努力したいと思つています。

上大納婦人会長 谷口 三代

才一回へき地

中学校生徒交歓会開かる

本村から五十二名が参加

本年八月二十一日には小学校四年生を対象にへき地学校児童交歓会が開かれたが、今度は中学校二年生を対象に去る十月二十、二十一日に福井市県民会館において全県下十四校約一八〇名が参加して第一回へき地学校生徒交歓会が盛大に催された。

今回の催しは、県や教育委員会の特別の行事であり、本村からは朝日、大納の両校から五十二名が参加し、まずそれぞれの学校生活や地域の紹介の発表、福井市を中心に周辺の学校や工場などの見学、又、夕食会には、なごやかなフォークダンスや歌、ゲームなど内容豊かな交歓会であり意義ある二日間を過ごした。

学校へ帰ってからは参加者全員が、この交歓会での喜びや感激をお伝えして、中学生のささやかなお礼の気持ちを示したいと、感想文を綴り、さらに教育センターで五部コピーで増刷し、関係へ三部送付して、その敬意を示しました。

出来上がった感想文から特徴ある感激や驚きを持ったものである。

○ 他校の姿から想う
バスの中で「へき地学校生徒交歓会」という本を見て大変びつくりしました。それは、私達のクラスが二十三人でとても少ないと思っていたのに、一人か二人しかいないクラスがあつたか

らである。今度集まる学校の中で私達のクラスは二番目に多い事がわかりました。

○ 感動した交歓会
各学校の発表は、へき地の学校にもかわらず立派で、大変勉強していること、又、すばらしいと思つたのはクラブ活動、生徒会活動です。各校共通のなやみは、年々生徒数の減少と出入りの激しい状態だと思ひます。多くの同じ学年の人と会つていろいろなことを知り、又、学校の様子や他の地方の漁村のことなどが分かり、私達の学校と比較が出来大変勉強になりました。

なかでも私達が日常見られない海、その海の近くで毎日学習、スポーツに励んでいる楽しそうな姿がとてもうらやましく思ひました。それに成中のプラスチックバンドは、まだ耳の奥に残つています。

○ すつかり開放された
印象的な夕べの集い
一番印象に残つたのは、夕べの集いでした。歌を歌つたり、フォークダンスを踊つたり、大変楽しく過ぎていただきました。はつきり言えば私は始め、いやだなあと思つた夕べの集い、でもやつている間にその心がどこかへいつてしまいました。一度も会つていない、話しもしたことのない友達と手を取り合つて踊つたあのフォークダンスとても楽しく過ぎていただき、最後にローソクに火をつけて「螢の光」を歌つた時、私は感動して泣きそうになりました。もう別れるのかと思うと悲しくなりました。

○ 初めて知つた
ビニールの使途
見学してきたところは、始めてのことばかりで感心したり驚いたりつづきました。大きな音をたてる機械、その中で働いている人の姿、みんな一生懸命でした。説明の人も時間が限られているのに、わたくし説明してください、ビニールの使い方もいろいろあることを学びました。

○ すつかり開放された

印象的な夕べの集い

一番印象に残つたのは、夕べの集いでした。歌を歌つたり、フォークダンスを踊つたり、大変楽しく過ぎていただきました。はつきり言えば私は始め、いやだなあと思つた夕べの集い、でもやつている間にその心がどこかへいつてしまいました。一度も会つていない、話しもしたことのない友達と手を取り合つて踊つたあのフォークダンスとても楽しく過ぎていただき、最後にローソクに火をつけて「螢の光」を歌つた時、私は感動して泣きそうになりました。もう別れるのかと思うと悲しくなりました。

○ 初めて知つた
ビニールの使途
見学してきたところは、始めてのことばかりで感心したり驚いたりつづきました。大きな音をたてる機械、その中で働いている人の姿、みんな一生懸命でした。説明の人も時間が限られているのに、わたくし説明してください、ビニールの使い方もいろいろあることを学びました。

○ メガネづくり
目を丸くする
型を切る人、曲げる人、点検する人と忙しく働いているところを見て感心しました。すばらしい工員の慣れきつた手つき、そして工場設備には、本当に目が輝き生き生きと感じられ、あんなに厚いメガネわくでも打ち抜きをして削り、磨き上げて出来ていく仕事には興味をもたずにはいられませんでした。このようなことをして作りあげられる

ことを知つて、メガネをもつと大切にしようと思ひました。

○ 思わず固くなつた裁判所
前日の疲れがどつと出たのか一時間近く説明を聞いているうちに私は壁によりかかつて眠つてしまつた。でも次の監房の所へ来て、なんとなくうす気味悪く、こわくて目がさめてしまつた。

○ うらやましかつた
国立高専
国立高専を訪れて驚いたのは、学校の面積があまりにも広いことで、私の想像をはるかに上廻つている大きな学校でした。宿舎もあり、広い校庭と講堂、講堂は私たちの学校の講堂の三倍から四倍ぐらいでとてもうらやましかつた。又、勉強の出来る人しか入れず大野郡からは一人しか入つていませんよほど勉強ができなくては入れないのだなと思ひました。

○ さらに想う
希望や感激
バスに乗るのも寝るのも学校別でした。私は、もつとバラ／＼にして、他の学校の友達と自由に語り合いたかつたので、こういう時こそ多くの友達とまじわり合いたいものです。来年も行なうのならば、見学場所を少なくしてレクリエーションの時間を多くしたらよいと思ひます。でも交歓会は中学生活のよい思い出になると思ひます。

夕べの集いに「おしやべりコーナー」をつくと、みんなと友達になれると思ひます。

ぼくたちには、ぶつう見られない大きな工場や学校、裁判所、新聞社、放送局、農業試験場を見せていただき、ていねいな説明をして下さいました。ぼくたちが学校を出て社会へ飛び立ち工場などに務める時に大変役にたつと思ひます。

学校へ帰つてきて一年生と三年生がいろいろとぼくたちに交歓会のことを尋ねていましたが、三年生は行けなかつたのでとてもくやしがつていました。来年もまた会いたい。また交歓会に参加したいと私は何度思つただろう。私はこの交歓会を通じて何人もの人と友達になれたことをとても嬉しく思ひます。

人のうごき

- 【婚姻】
- 名古屋西区 近藤 保幸
- 下 山 松田 信子
- 後 野 米倉 治一
- 大野市猪島 齊藤 幸子
- 上大納 中川 久子
- 上大納 古賀 敏勝

▼あとがき▲

十二月を迎えるとだれしも、ああもう一年が終るのか、と月日のたつ早さをしみじみと感じるものです。又、中冬から厳冬へと日まじしに冬が深まり寒さもいよいよきびしくなる月である。まず体を大切に健康で

